

2014年9月期決算ハイライト (単体)

損益の状況 (単体)

(単位: 百万円)

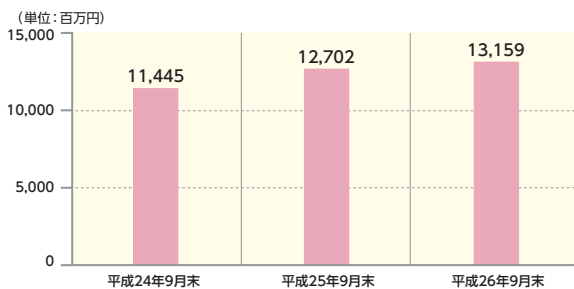
	平成26年 9月期	前年 同期比	平成25年 9月期
経常収益	13,159	457	12,702
うち資金利益	9,070	826	8,243
うち役員取引等利益	△ 700	△ 266	△ 434
コア業務粗利益	8,397	753	7,644
経費 (△)	5,596	222	5,373
コア業務純益	2,801	530	2,270
債券関係損益	1,227	1,069	158
実質業務純益	4,028	1,600	2,428
うち株式等関係損益	72	△ 664	736
うち与信費用 (△)	1	△ 159	160
経常利益	4,025	1,117	2,907
中間純利益	2,483	533	1,949

(注) 1. 「コア」とは、債券関係損益、一般貸倒引当金繰入額を除く損益
 2. 「与信費用」とは、不良債権処理額に一般貸倒引当金繰入額を加えた金額

当中間期におけるわが国の経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動による影響も見られるものの、経済政策による下支えや、雇用や夏季賞与の増加といった所得雇用環境の改善などを背景に、景気は緩やかな回復基調が続いております。

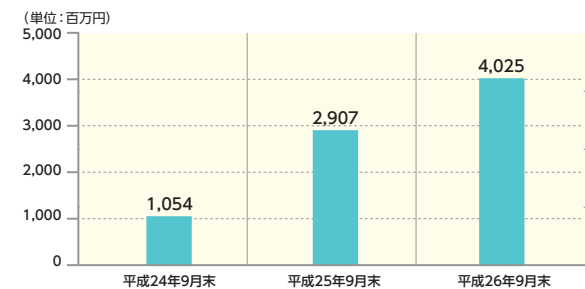
このような環境のなか、当行は、平成26年4月より新中期経営計画～先進性、信頼感、親近感～を策定し、中期経営計画に基づく各施策へ取組んだ結果、経常収益は前年同期比4億57百万円増加して131億59百万円、経常利益は前年同期比11億17百万円増加して、40億25百万円の増収増益となりました。また、中間純利益は前年同期比5億33百万円増加し、24億83百万円となり中間期としては過去最高益を更新しました。

■ 経常収益の推移



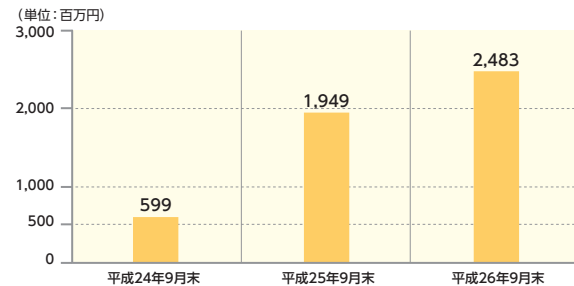
経常収益は、資金利益等の増加に伴い、前年同期比4億円増加し、131億円となりました。

■ 経常利益の推移



経常利益は、債券関係損益の増加や与信費用の減少により、前年同期比11億円増益の40億円となりました。

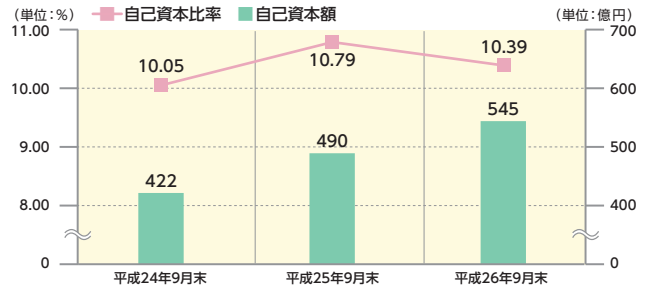
■ 中間純利益の推移



中間純利益は、前年同期比5億円増益の24億円となり、過去最高益を更新しました。

自己資本比率の状況 (単体)

■ 単体自己資本比率と単体自己資本額の推移

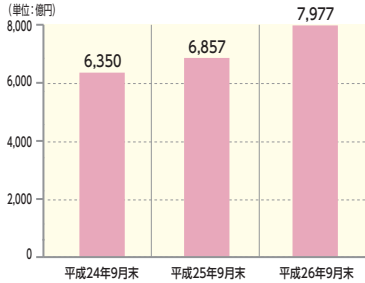


貸出金の残高増加により、リスクアセットが増加し、単体自己資本比率 (国内基準) は前年同月比0.4ポイント低下し10.39%となりましたが、自己資本額は前年同月比55億円増加し545億円となりました。

※平成24年9月末、平成25年9月末は、バーゼルⅡ基準
 平成26年9月末は、バーゼルⅢ基準

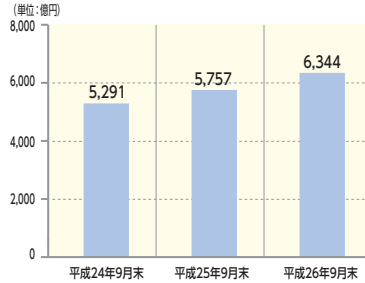
営業の状況

貸出金残高の推移



住宅ローンや地元中小企業向け貸出が好調に推移した結果、前年同月比1,120億円増加し、7,977億円となりました。

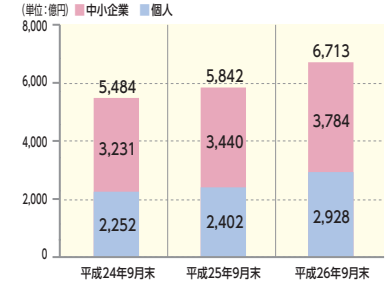
地元※貸出金残高の推移



積極的に資金の地域内循環を進めた結果、地元への貸出は前年同月比587億円増加し6,344億円となり、総貸出金の79.5%を占めています。

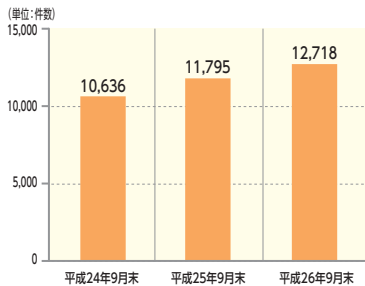
※地元（山口県、広島県、福岡県）

中小企業・個人向け貸出の推移



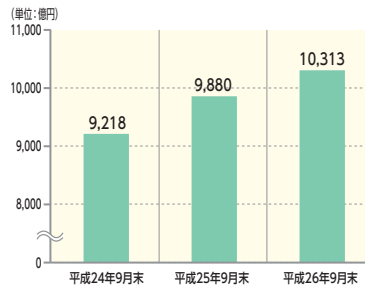
コンサルティング機能の強化により、中小企業・個人のお客さまへの貸出は、前年同月比871億円増加し、6,713億円となりました。

事業性貸出件数の推移



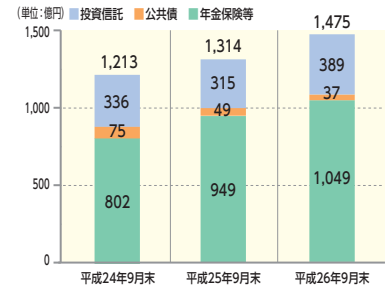
お客さまのニーズに応じた幅広い情報提供を行った結果、前年同月比923件増加し、12,718件となりました。

預金残高の推移



「維新定期預金～文～」や「給振定期預金」がご好評をいただき、前年同月比433億円増加し、1兆313億円となりました。

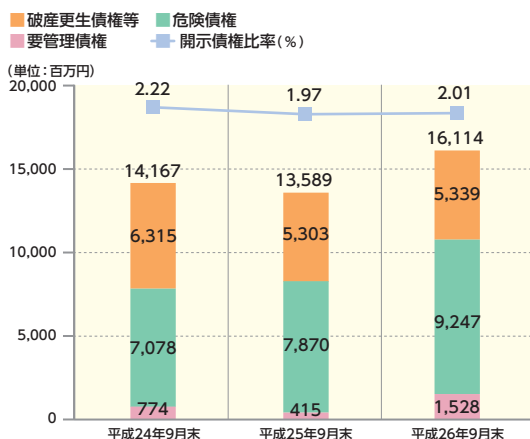
預り資産残高の推移



お客さまの資産運用ニーズにお応えするため、マネープラザを拠点に販売を行った結果、前年同月比161億円増加し、1,475億円となりました。

不良債権の状況

開示債権額と不良債権比率 (総与信に占める開示債権額の比率)の推移



地元の中小零細・個人のお客さまに対して積極的な資金提供を行った結果、金融再生法開示債権額は前年同月比25億25百万円増加し、金融再生法開示債権比率は0.04ポイント上昇し2.01%となりました。